



2025 年度 創価大学大学院

博士前期課程・修士課程

[入試要項]

一般入試・学内選考試験・特別学内選考試験

経済学研究科

法学研究科

文学研究科

教育学研究科

国際平和学研究科

経済学専攻

法律学専攻

英文学専攻

社会学専攻

人文学専攻

国際言語教育専攻

教育学専攻

国際平和学専攻

目 次

I	<博士前期・修士課程> 入学試験概要	3
1.	募集研究科・専攻・募集定員	3
2.	入学試験日程	4
3.	出願の流れ・方法	6
4.	出願上の注意事項	7
5.	試験会場	7
6.	合格発表	8
7.	入学手続（入学金・学費等）	8
II-1	<入学試験制度> 博士前期／修士課程：学内選考試験	10
II-2	<入学試験制度> 博士前期課程：特別学内選考試験	11
II-3	<入学試験制度> 博士前期／修士課程：一般入学試験	13
III	学内選考・特別学内選考・一般入学試験 【共通事項】	14
1.	出願書類・検定料	14
2.	経済学専攻・国際言語教育専攻・国際平和学専攻における出願時必須事項	16
3.	選考試験科目・時間帯	20
●	経済学研究科 経済学専攻	22
●	法学研究科 法律学専攻	27
●	文学研究科 英文学専攻	28
●	文学研究科 社会学専攻	29
●	文学研究科 人文学専攻	30
●	文学研究科 国際言語教育専攻	30
●	教育学研究科 教育学専攻	31
●	国際平和学研究科 国際平和学専攻	31
IV	博士前期／修士課程 <カリキュラム表・開講科目・担当教員一覧>	32
VIII	その他	35
	大学院教員の紹介	37

I <博士前期・修士課程> 入学試験概要

1. 募集研究科・専攻・募集定員

研究科	専攻	募集定員
		博士前期／修士課程
経済学研究科	経済学専攻	15名
法学研究科	法律学専攻	15名
文学研究科	英文学専攻	10名
	社会学専攻	10名
	人文学専攻	8名
	国際言語教育専攻	15名
教育学研究科	教育学専攻	15名
国際平和学研究科	国際平和学専攻	16名

※ 上記の募集定員は、学内選考(特別学内選考含む)・一般・外国人学生等の入試制度を合わせた全体の募集人数です。

2. 入学試験日程

【博士前期／修士課程】＜2025年春学期（4月）入学入試日程＞

入試制度	対 象	出願期間	選考試験日	合格発表日	手続期間	
					第 1 次	第 2 次
学内選考	全研究科	2024年 4月1日(月) ～4月8日(月)	2024年 5月18日 (土)	2024年 5月24日 (金) 11:00	2024年 10月11日(金) ～18日(金)	2025年 2月24日(月) ～3月3日(月)
特別学内選考 (第Ⅰ期)	経済学研究科 法学研究科 文学研究科					
一般 (第Ⅰ期)	経済学研究科 法学研究科 文学研究科 (国際言語教育専攻英語 教育専修を除く) 教育学研究科	2024年 7月25日(木) ～8月15日(木)	2024年 9月21日 (土)	2024年 9月27日 (金) 11:00		
特別学内選考 (第Ⅱ期)	経済学研究科 法学研究科 文学研究科					
一般 (第Ⅱ期)	文学研究科 国際言語教育専攻 (英語教育専修のみ)	2024年 9月13日(金) ～10月4日(金)	2024年 11月30日 (土)	2024年 12月6日 (金) 11:00	2025年 2月24日(月) ～3月3日(月)	
	国際平和学研究科	2024年 9月13日(金) ～10月31日(木)				
一般 (第Ⅲ期)	法学研究科 文学研究科 (国際言語教育専攻英語 教育専修を除く) 教育学研究科	2024年 12月2日(月) ～12月20日(金)	2025年 2月8日 (土)	2025年 2月14日 (金) 11:00		
特別学内選考 (第Ⅲ期)	経済学研究科 法学研究科 文学研究科					

※ 一般入学試験・特別学内選考試験は、第Ⅰ期～第Ⅲ期にわたって実施しています。

※ 経済学研究科経済学専攻国際ビジネス専修は、秋学期（9月）入学入試のみの実施のため、春学期（4月）入学入試は、実施しておりません。

※ 文学研究科国際言語教育専攻英語教育専修、国際平和学研究科は、試験日1週間前までに大学より通知があった方のみ試験日に面接を実施します。

【博士前期／修士課程】＜2025 年秋学期（9 月）入学入試日程＞

入試制度	対 象	出願期間	選考試験日	合格発表日	手続期間
一般入試	文学研究科 国際言語教育専攻	2025 年 2月7日(金) ～3月6日(木)	2025 年 5月17日(土)	2025 年 5月23日(金)	2025 年7月11日(金) ～2025 年7月18日(金)
	経済学研究科 経済学専攻 国際ビジネス専修				

※文学研究科国際言語教育専攻英語教育専修および経済学研究科経済学専攻国際ビジネス専修は、試験日 1 週間前までに大学より通知があった方のみ試験日に面接を実施します。

3. 出願の流れ・方法

STEP1

WEB 出願システム The Admission Office (TAO) にアクセス

出願および出願書類の提出は、The Admission Office (以下、TAO) から行ってください。

[創価大学大学院 WEB 出願ページ \(TAO\)](#)

ユーザー登録等の利用方法の詳細については、以下マニュアルをご参照ください。

[TAO 利用マニュアル](#)



STEP2

出願書類の準備

各研究科によって必要な書類が一部異なります。詳細は「Ⅲ 学内選考・特別学内選考・一般入学試験【共通事項】博士前期／修士課程」をご確認ください。

STEP3

出願書類を TAO にアップロード

WEB 出願システム TAO より、必要な出願書類をアップロードしてください。出願書類の郵送は不要です。

成績証明書・卒業証明書は合格後に原本を提示または提出いただきます。

なお、推薦書が必要な入試は、TAO 上で第3者に推薦書の依頼をすることができます。

STEP4

受験料 (33,000 円+決済手数料)のお支払い

クレジットカードによる支払いが可能です。

決済手数料については、お手数ですがご負担をお願いします。

※2024年8月以降、ペイジーとPaypalによる決済も利用可能になる予定です。



STEP5

受験票をダウンロード・印刷し、受験当日に持参

出願期間終了後、TAO 上に受験票が発行されますので、入試当日に印刷をしてお持ちください。

(オンライン面接のみの場合は、印刷不要)

●問い合わせ先：創価大学 学事部学事第2課大学院係

TEL: 042-691-9423 Email: gsoffice@soka.ac.jp

●窓口受付時間：平日午前9時30分～午後5時・土曜午前9時30分～12時

※12月下旬～1月上旬の冬季休業期間中は、窓口受付ができませんのでご注意ください。

(休業日程の詳細はホームページ上でご確認ください)

4. 出願上の注意事項

- (1) 出願書類等に不備があるもの、及び出願期間を過ぎて提出されたものは、選考の対象とはしません。
- (2) 出願書類において虚偽の記載や偽造が発見された場合、次のような対応をとることがあります。
 - ・当該年度における本学入学試験の出願を不受理とする（入学検定料の返金は行わない）
 - ・当該年度における本学入学試験の結果を無効とする
- (3) 出願書類において虚偽の記載や偽造が発見された場合、ならびに試験において不正行為があったことを示す証拠が発見された場合には、合格後や入学後であっても遡って、合格・入学許可を取り消すことがあります。
- (4) 受理された出願書類の記載事項についての変更及び、出願受理後の研究科・専攻の志望の変更は認めません。
- (5) 一度支払われた検定料は、原則として返還しません。
- (6) 提出された各種証明書等が、日本語または英語以外の言語で記載されている場合は、必ず日本語または英語の翻訳を添付すること。
(国際平和学研究科及び文学研究科国際言語教育専攻英語教育専修については、英語翻訳のみ受付を可能とする。日本語のみの書類についても、必ず英訳を添付すること)
- (7) 出願書類が受理されると、WEB 出願システム TAO 上にて、受験票が PDF 形式で発行されます。受験票は各自印刷の上、受験当日にお持ちください。
- (8) 成績証明書・卒業証明書の原本は、合格後に窓口へ提出または提示される必要があります。

※指導教員の決定について

開講科目・担当教員一覧に注印がついている教員、兼任の記載がある教員、客員教授・兼任講師は、指導教員にすることはできません（博士前期／修士課程、博士後期課程とも）

5. 試験会場

創価大学中央教育棟（東京都八王子市丹木町 1-236）

- 試験開始 20 分前までに指定された試験会場（フロア）に集合して下さい。
試験教室等の詳細は、現地に掲示致します。
- オンライン面接の場合は 5 分前までに指定されたビデオ会議システムへのログインをお願いします。

6. 合格発表

合格については、合格発表日の午前 11 時に WEB 出願システム「The Admission Office (TAO)」にて発表いたします。

- ①国内在住の合格者には、「合格通知書・入学案内手続き」を発表日当日に限り、合格通知書及び、入学手続き書類を窓口でお渡しします。
- ②当日書類を受け取られなかった方については、翌営業日以降、当該書類をご自宅へ郵送致します。
- ③海外在住の合格者には後日、メール等にて各種ご案内をお送り致します。
- ④合格に関する、電話・メール・郵便等での問い合わせには一切応じません。

7. 入学手続（入学金・学費等）

合格者は、所定の期間内に入学手続・納入をして下さい。ただし詳細については、合格発表後に文書等で通知します。入学手続は、2回に分けて行います。（合格時期によっては1回のみ）

(1) 第1次入学手続（入学金の納入）

【博士前期／修士課程】

入学金 納入額	対 象 者
100,000 円	本学学部卒業者 本学別科修了者 本学通信教育部の卒業生 本学情報システム先端技術講座修了生
200,000 円	上記に該当しない方

(2024 年度実績)

(2) 第2次入学手続（学費等の納入及び入学手続書類の提出）

第2次手続書類は、第1次手続完了者に対して、2月(秋学期入学は7月)に郵送します。ただし、一般入学試験(第Ⅱ期、Ⅲ期)、特別学内選考試験(1月、2月実施)の合格者については、第1次手続と同時にあります。

<春学期(4月)入学第2次手続期間納入金額>

【博士前期／修士課程】

項 目	一括払い	2回分割払い	
	入学手続時 (年間学費)	入学手続時 (半年分学費)	秋学期納入時 (半年分学費)
授 業 料	650,000 円	325,000 円	325,000 円
合 計	650,000 円	325,000 円	325,000 円

(2024 年度学費実績)

【臨床心理学専修のみ】 <春学期（4月）入学第2次手続期間納入金額>

項 目	一括払い	2回分割払い	
	入学手続時 (年間学費)	入学手続時 (半年分学費)	秋学期納入時 (半年分学費)
授 業 料	640,000 円	320,000 円	320,000 円
実 習 費	110,000 円	55,000 円	55,000 円
合 計	750,000 円	375,000 円	375,000 円

※臨床心理学専修の学費は、「実習費」が加算されます。

(2024 年度学費実績)

<秋学期（9月）入学第2次手続期間納入金額>

【修士課程】

項 目	入学手続時 (半年分学費)
授 業 料	325,000 円
合 計	325,000 円

(2024 年度学費実績)

【入学手続きにおける共通の注意事項】

- ① 納入期間内に手続を行わない場合は、合格を取り消します。
- ② 授業料等は、手続期間内に必ず完納して下さい。
 - ・ 春学期入学の場合の納入回数は、1回払い（入学手続時に年間学費の一括納入）又は、2回分割払い（春学期半年分・秋学期半年分の分割納入）が選択できます。
 - ・ 秋学期入学の場合の納入回数は、半年分の学費の1回払いのみです。
- ③ 入学手続後、事情により入学を辞退する場合があっても納入された入学金は返還しません。事情により入学を辞退する場合は、入学金を除く授業料等を返還します。但し、入学式の前日までに届け出のあった場合に限りです。
- ④ 合格者は、日本学生支援機構予約奨学生に出願することができます（留学生と1月以降実施の入学試験合格者は除く）。

II-1 <入学試験制度> 博士前期／修士課程：学内選考試験

学内選考試験は、全研究科（経済学研究科、法学研究科、文学研究科、教育学研究科、国際平和学研究科）を対象として実施しています。

1. 出願資格

- (1) 本学学生（外国人学生を含む）で、2024年度卒業見込の者。
- (2) 本学通信教育課程の学生で、2024年度卒業見込の者。
- (3) 2024年度に本学学部研究生に登録中の者。

2. その他

出願書類、選考試験科目等については、「III 学内選考・特別学内選考・一般入学試験【共通事項】博士前期／修士課程」を参照して下さい。

II-2 <入学試験制度> 博士前期課程：特別学内選考試験

経済学研究科、法学研究科、文学研究科の博士前期課程では、それぞれ特別学内選考試験を実施しています。詳細は以下の通りです。

1. 出願資格

《経済学研究科》

本学経済学部・経営学部¹に在籍している学生で、大学院に入学するにふさわしい能力と研究意欲を有する者のうち、下記の要件を満たす者。

- * 学部での学業成績が、G P A 3.40 以上 (2018 年度以前入学生は GPA3.80 以上) で、2025 年 3 月に卒業見込の者。ただし、2024 年 9 月に卒業する者については出願を許可する。

《法学研究科》

本学法学部に在籍している学生で、大学院に入学するにふさわしい能力と研究意欲を有する者のうち、下記の 2 つの要件を共に満たす者。

- * 3 年次生に配当された演習の担当教員の推薦を受けた者。ただし、担当教員の推薦を受けることができない特段の事情があるときは、学部長の推薦を受けた者。
- * 学部での学業成績が、G P A 3.20 以上 (2018 年度以前入学生は GPA4.00 以上) で、または、税理士試験科目を 1 科目以上合格した者で、2025 年 3 月に卒業見込の者。ただし、2024 年 9 月に卒業する者については出願を許可する。

《文学研究科》

本学文学部に在籍している学生で、大学院に入学するにふさわしい能力と研究意欲を有する者のうち、下記の 2 つの要件を共に満たす者。

- * 3 年次生に配当された演習の担当教員の推薦を受けた者。ただし、担当教員の推薦を受けることができない特段の事情があるときは、学部長の推薦を受けた者。
- * 学部での学業成績が、G P A 3.50 以上 (2018 年度以前入学生は GPA3.80 以上) で、2025 年 3 月に卒業見込みの者。ただし、2024 年 9 月に卒業する者については出願を許可する。

2. 選考試験内容

《経済学研究科》

試験方法	面接（経済学または経営学に関する基礎知識を問う）
試験時間	15:00～（受験者1人につき10分程度）
選考方法	面接試験及び書類審査の結果を総合判断して合否を決定する

《法学研究科》

試験方法	面接（法学または政治学に関する基礎知識を問う）
試験時間	14:30～（受験者1人につき10分程度）
選考方法	面接試験及び書類審査の結果を総合判断して合否を決定する

《文学研究科》

試験方法	面接 （希望する専攻・専修に関する基礎知識及び研究計画内容を問う）
試験時間	15:00～（受験者1人につき15分程度）
選考方法	面接試験及び書類審査の結果を総合判断して合否を決定する

II-3 <入学試験制度> 博士前期／修士課程：一般入学試験

1. 出願資格

本学大学院への出願には、以下のいずれかの出願資格を満たす必要があります。

- (1) 大学を卒業した者、または 2024 年度卒業見込みの者（秋学期入試出願者は、2025 年 8 月末までに卒業見込みの者）。
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者。
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了または 2024 年度修了見込みの者（秋学期入試出願者は、2025 年 8 月末までに修了見込みの者）。
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者。
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者。
- (7) 文部科学大臣の指定した者。
- (8) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、当該研究科委員会において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。
- (9) 当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月で 22 歳に達した者。

※(4)から(9)の資格により出願を希望する者について

- ① 出願時に資格審査を行います。
- ② 所定の出願書類に加えて「出願資格認定申請書」（G 票）、「出願資格認定申請理由書」（H 票）を提出して下さい。
- ③ 中国 3 年制大学の学位は、本学大学院の出願資格としては認められません。

※出願ができる外国人受験者の定義について

- ① 日本国籍を有しない者であって、かつ、日本国における永住資格を有しない者。
- ② 出入国管理及び難民認定法において、本学入学に支障のない在留資格を有する者。

Ⅲ 学内選考・特別学内選考・一般入学試験 【共通事項】

博士前期／修士課程

1. 出願書類・検定料

- ※ 出願書類は全てウェブ出願システム The Admission Office(TAO)を経由して提出してください。個別メール等での提出は受付でき兼ねます。
- ※ 本学所定の出願書類については、文系大学院ホームページ「文系大学院 入試情報」→「出願書類」からダウンロードしてください。

種類	出願書類及び注意事項
A	顔写真のデータ * 最近3ヶ月以内に撮影した顔写真で、3cm×4cm 上半身・無帽・無背景のもの。カラー可。 * WEB 出願システム TAO 上で登録すること。
B-1	出身大学の成績証明書の写し * 全学年にわたるもの。出身大学で申請すること。
B-2	出身大学院の成績証明書の写し（該当者のみ） * 大学卒業後、大学院へ進学した者のみ。
C-1	出身大学の卒業証明書、または卒業見込証明書の写し * 出身大学で申請すること。学士の証明を含むこと。 * 卒業見込証明書を提出した者は、卒業後すみやかに卒業証明書を提出すること。（卒業証明書が発行されない場合は「C-3 学位記の写し」を提出すること）
C-2	出身大学院の修了証明書、修了見込証明書、または在学証明書の写し（該当者のみ） * 大学卒業後、大学院へ進学した者のみ。 * 修了証明書が発行されない場合は「C-3 学位記の写し」を提出すること
C-3	学位記の写し * 学位記を取得したことを証明するもの。卒業/修了証明書に明記されている場合は、改めて提出する必要はない。また、学士号取得を証明するものがない場合は、出身大学の学長等による大学院への進学資格を証明する書類を提出すること。
D	志望理由書および入学後の研究計画 * 本学所定の用紙（D 票）を使用すること。 * 国際言語教育専攻英語教育専修及び国際平和学研究科については、指定された書式でテーマに応じたエッセイを作成すること（詳細は p.17～p.21 を参照）

E	<p>推薦書（該当者のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別学内選考に出願する者（E-1 票） 1 通 ・ 文学研究科国際言語教育専攻英語教育専修に出願する者（E-2 票） 2 通 ・ 国際平和学研究科に出願する者（E-3 票） 2 通 <p>上記に該当する者は、本学所定の用紙を使用して推薦書の作成を推薦者に依頼すること。推薦書提出の手順は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受験者は推薦者のメールアドレスを WEB 出願システム TAO 上に登録する ② 推薦者に推薦状提出フォームがメールで自動配信される ③ 推薦者は届いたメールに記載されたリンクにアクセスし、TAO のアカウントを作成後、受験者の推薦書（PDF ファイル）をアップロードする
F	<p>英語/日本語能力証明書類（該当者のみ）</p> <p>* 以下の研究科・専攻・専修に出願する者は、外国語の筆記試験を実施しない代わりに、所定の英語/日本語能力証明書類を提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学研究科 ・ 文学研究科国際言語教育専攻英語教育専修（TESOL） ・ 国際平和学研究科 <p>* 各専攻・専修の英語能力証明の要件については、p.16～p.21 を確認すること。</p> <p>* なお、出願時より 2 年以内に TOEFL iBT 及び IELTS を受験したことがある場合、実施機関を通じて本学に直接スコアを提出することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ TOEFL iBT：ETS ウェブサイトにて大学コード「B413」を選択してください。 ■ IELTS：IELTS 試験実施機関に問い合わせの上、大学名「Soka University Graduate School」宛にスコアを提出するようご依頼ください。
その他 証明書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学別科修了生・在学生については、別科修了証明書もしくは別科修了見込証明書の写しを提出すること。 ・ * 該当者は入学金の一部が免除されますので、必ず出願時に提出してください。提出がない場合は免除対象となりません。 ・ 法学研究科の「法曹の資格を現に有する者（司法試験に合格して司法修習を修了していない者を含む）」の適用を希望する者は、資格を証明する書類を提出すること。
検定料	<p>検定料 33,000 円+決済手数料</p> <ul style="list-style-type: none"> * クレジットカードによる支払い ・ * 決済手数料はお手数ですが、各自ご負担をお願いします。

2. 経済学専攻・国際言語教育専攻・国際平和学専攻における出願時必須事項

【経済学研究科経済学専攻出願者へ】※必須事項

経済学研究科の入学試験では、出願書類の「志望理由及び入学後の研究計画」（D 票）が評価の対象となります。以下の項目を入れて記載してください。

①志望理由 ②研究テーマ ③研究の背景 ④研究の方法

経済学研究科の外国語試験は、英語（日本語）能力証明書類によって行われます。経済学研究科を志望する者は、出願時にこれらの書類の写しを提出してください。

【経済学専修・経営学専修】

TOEFL-iBT61+、TOEFL-PBT500+、TOEIC670+、TOEIC -IP 670+、IELTS4.5+以上の英語能力を有していることを証明できる書類（コピー可）の提出を出願条件とする。

英語を母語とする受験者は「高校・大学の卒業証明書」「英語で教育が実施されたことが記載された証明書」を提出することによって、上記の英語能力証明書類の提出が免除される。

日本国以外の国籍を有する受験者は、日本語能力証明書（日本語能力試験N2 レベル以上の合格証明書）の写しを提出すること。

特別学内選考試験の受験者については、面接試験のみの実施となるため、英語能力証明書類の提出は不要とする。

【国際ビジネス専修】

国際ビジネス専修は、TOEFL-iBT80+、IELTS6.0+、または Duolingo105+以上の英語能力を有していることを出願条件とする。

英語を母語とする場合も英語能力証明書類の提出は必須とする。

Duolingo のスコアを提出する場合、必ず試験実施機関のウェブサイトから本学に直接スコアを提出してください。その際、「Soka University -Graduate School of Economics-」を指定し、提出してください。

国際ビジネス専修の志願者は、GRE®または GMAT®のスコア結果（有効期限 5 年以内）を提出することが推奨されます。上記のスコア結果を出願書類と併せて提出することにより、基礎学力が審査されます

※上記スコア結果を提出しない場合、面接時に基礎学力の審査が実施されます。

【国際言語教育専攻 英語教育専修出願者へ】※必須事項

出願書類は全て英語で作成すること

D 票について、本人が作成した英語によるエッセイを出願書類として添付すること。テーマ等は以下の通り。

テーマ：How does this program help you achieve your overall professional goals as a language educator?

分量：A 4 で4 ページ以内。ダブルスペース（行間2行）とする。詳細は下記参照。

推薦書（2通）

フォーマットは下記ウェブページよりダウンロードしてください。

https://www.soka.ac.jp/en/admissions/application/graduate_policy/admission_process_bunkei/guideline_forms/grad-let-tesol

詳細は次頁参照。

英語能力証明書類（TOEFL-iBT もしくは IELTS のみ受付可。2年以内のもの）を出願書類として提出すること（コピー可）。なお、英語を母語とする方で英語能力証明書類を提出できない方については、以下1)～4)の項目を満たす場合に限り、TOEFL iBT または IELTS のスコア提出を免除される場合があります。

- 1) 幼少時から英語を習得した。
- 2) 日常生活において英語を主たる言語として使用する。
- 3) 英語運用能力が他のどの言語よりも優れている。
- 4) 英語において、文法、語彙、発音にわたり、また社会言語学的にも十分な能力を保持している。

英語能力証明提出の免除を希望する場合、「英語で教育を受けたことが明示されている高校、大学時代の卒業証明書」を提出してください。なお、受験者の高校・大学における教育が英語で実施されたことが、卒業証明書に明記されていない場合、別途中等・高等教育を英語で受けたことを示す証明書や公式なレターの提出が必要です。また、上記の項目2)～4)に関連する、日常的、個人的および職業的な英語の使用について記載した任意の書面の提出が必要となります。

上記の書類が英語能力証明書類の代わりに提出された場合、書類審査時に英語能力証明書の免除について、審査されます。

International Language Education Program: TESOL - Personal Statement

Please provide a personal statement describing your educational objectives. The personal statement gives you the opportunity to explain your reasons for pursuing graduate study and to express your thoughts clearly in an organized and focused way.

Please answer the following question regarding the Graduate Program in International Language Education: TESOL:

***How does this program help you achieve
your overall professional goals as a language educator?***

You may wish to address:

- why you are applying for the International Language Education (ILE) program;
- how the ILE program will relate to your long-range career objectives;
- what personal or “non-academic” qualities you will contribute to the learning environment in this program;
- what your research interests in language education may be; and / or,
- what personal experiences have influenced your intellectual development and future goals with respect to the ILE program.

The personal statement should:

- include your name and a title;
- not exceed 1,000 words; and
- be typed double spaced (Times New Roman 12).

Please carefully revise and edit your statement as all qualities of good writing including organization, structure, grammar, and spelling will be considered.

International Language Education Program: TESOL – Letters of Recommendation

Two letters of recommendation are requested of each applicant. These two letters should be provided by those able to attest to the applicant’s:

- Abilities to successfully complete a rigorous graduate degree in an international context (delivered in an English-medium format); and,
- Potential as a future language educator.

Each letter of recommendation should:

- Include the contact information (email, address and telephone number) of the referee;
- Be completed on the form provided (additional pages can be included by the referee, on official institutional letterhead);
- Must be signed by the referee; and,
- Returned in a sealed envelope, signed across the seal, to the applicant to be included in the package of application materials delivered to the university.

International Language Education Program: TESOL – Interview

Some applicants may be contacted for an interview. Interview requests will be sent one week prior to the requested interview date.

If an applicant is contacted for an interview, the interviews will be held on the Soka University campus in

Hachioji, Tokyo, in the Global Square Building, on the specified dates above.

- Soka University administration will notify the applicant of the specific interview time.
- Applicants should plan to arrive a minimum of 20 minutes before their scheduled interview.
- Interview rooms will be announced at the entrance lobby of the Global Square Building on the interview day.

Applicants living abroad can be interviewed via online technologies. In the case of interviews for applicants living abroad:

- Applicants will be contacted via email prior to the interview in order to organize necessary information (exchange of Skype IDs, etc.).
- It is the sole responsibility of the applicant to ensure that suitable technology is available in their country of residence to perform the interview.
- Video interviews are required in order to verify applicant identity.
- Scheduling of the interview time will be at the discretion of the ILE faculty, but every reasonable effort will be made to take into account time zone differences.

【国際平和学研究科 国際平和学専攻出願者へ】※必須事項

出願書類は全て英語で作成すること

D 票について、本人が作成した英語によるエッセイを出願書類として添付すること。テーマ等は以下の通り。

テーマ：How does this program help you achieve your overall professional goals?

分量：A 4 で4 ページ以内。ダブルスペース（行間2行）とする。

※ 詳細は下記参照。

Letters of Recommendation（2通）

※フォーマットは下記ウェブページよりダウンロードしてください。

https://www.soka.ac.jp/en/admissions/application/graduate_policy/admission_process_bunkei/guideline_forms/grad-let-p

※ 詳細は次頁参照。

英語能力証明書類（TOEFL-iBT もしくは IELTS のみ受付可。2年以内のもの）を出願書類として提出すること（コピー可）。

School of International Peace Studies - Personal Statement

Please provide a personal statement describing your educational objectives. The personal statement gives you the opportunity to explain your reasons for pursuing graduate study and to express your thoughts clearly in an organized and focused way.

Please answer the following question regarding the School of International Peace Studies:

How does this program help you achieve your overall professional goals?

You may wish to address:

- Why you are applying for the School of International Peace Studies;
- How the School of International Peace Studies will relate to your long-range career objectives;
- What personal or “non-academic” qualities you will contribute to the learning environment in this program;
- What your research interests in International Peace Studies may be; and / or,
- What personal experiences have influenced your intellectual development and future goals with respect to the School of International Peace Studies.

The personal statement should:

- include your name and a title;
- not exceed 1,000 words; and
- be typed double spaced (Times New Roman 12).

Please carefully revise and edit your statement as all qualities of good writing including organization, structure, grammar, and spelling will be considered.

School of International Peace Studies – Letters of Recommendation

Two letters of recommendation are requested of each applicant. These two letters should be provided by those able to attest to the applicant's abilities to successfully complete a rigorous graduate degree in an international context (delivered in an English-medium format).

Each letter of recommendation should:

- Include the contact information (email, address and telephone number) of the referee;
- Be completed on the form provided (additional pages can be included by the referee, on official institutional letterhead);
- Must be signed by the referee; and,
- Returned in a sealed envelope, signed across the seal, to the applicant to be included in the package of application materials delivered to the university.

School of International Peace Studies – Interview

Some applicants may be contacted for an interview. Interview requests will be sent one week prior to the requested interview date.

If an applicant is contacted for an interview, the applicant is asked to choose one from the two options:

1. Taking interview on the Soka University campus in Hachioji, Tokyo, on the specified dates above.
 - Soka University administration will notify the applicant of the specific interview time.
 - Applicants should plan to arrive a minimum of 20 minutes before their scheduled interview.
 - Interview rooms will be announced at the entrance lobby of the Global Square Building on the interview day.
2. Taking interview via online technologies, on the specified dates above.
 - It is the sole responsibility of the applicant to ensure that suitable technology is available in their country of residence to perform the interview.
 - Video interviews are required in order to verify applicant identity.
 - Scheduling of the interview time will be at the discretion of the interviewers, but every reasonable effort will be made to take into account time zone differences.

3. 選考試験科目・時間帯

●経済学研究科 経済学専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
経済学専修	外国語	—	書類審査（英語能力証明書類）	—
	専門科目	出願時に 2科目選択	ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学・ 統計学、経済数学、経済史、開発経済学。 上記から2科目選択した科目で4題出題(各科目 2題)して3題必答。	13:00～ 14:30
	面接	—	面接	15:00～
経営学専修	外国語	—	書類審査（英語能力証明書類）	—
	専門科目	出願時に 2科目選択	経営管理論、経営史、金融論、財務管理論、経 営戦略論、ビジネス・エコノミクス、人的資源 管理論、会計学（財務会計、管理会計）、経営 情報。 上記から2科目選択した科目で4題出題(各科目 2題)して3題必答。	13:00～ 14:30
	面接	—	面接	15:00～
国際ビジネス専修	書類審査	—	成績証明書、英語能力証明書類、研究計画	—
	面接	—	面接（※英語で実施します。） 面接では、志望理由や基礎学力等について確 認します。	15:30～

※ 「特別学内選考試験」の出願者は、面接試験のみを行う。

※ 専門科目の出題範囲（テキストや項目）は別掲参照。

※ 国際ビジネス専修は、秋学期（9月）入学入試のみ実施。面接は英語で実施します。

◆ 経済学研究科 専門科目 出題範囲

経済学専修

ミクロ経済学

【参考テキスト】

芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009年、
武隈慎一『新版 ミクロ経済学』新世社、2016年

【主要な出題項目】

需要と供給 消費者行動 企業行動 競争均衡 独占 寡占 外部性と公共財 情報の経済学
ゲーム理論 顕示選好

マクロ経済学

【参考テキスト】

1. グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学Ⅰ 第4版』東洋経済新報社 2017年
2. グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学Ⅱ 第4版』東洋経済新報社 2018年
3. 齊藤 誠、岩本 康志、太田 聡一、柴田 章久『マクロ経済学 新版』有斐閣 2016年
4. 二神 孝一、堀 敬一『マクロ経済学 第2版』有斐閣 2017年

【主要な出題項目】

国民所得会計 物価指数 消費関数 投資関数 貨幣需要 絶対的流動性選好（流動性の罫）モデル 長期均衡 乗数理論 IS-LM 理論 総需要曲線 総供給曲線 インフレ需要曲線 インフレ供給曲線 マンデル＝フレミング理論 成長会計 ソロー成長モデル 実物景気循環理論 自然失業率 ベバリッジ(UV)曲線

計量経済学・統計学

【参考テキスト】

統計学 森棟公夫・他『統計学（改訂版）』有斐閣
計量経済学 山本拓・竹内明香『入門計量経済学』新世社

【主要な出題項目】

データの整理 確率 確率変数とその分布 母数の推定 仮説検定 単回帰 重回帰 最小2乗法 ガウス＝マルコフの定理 系列相関 不均一分散

経済数学

【参考テキスト】

A.C.チャン, K.ウエインライト 『現代経済学の数学基礎』第4版上・下, シーエービー出版, 2020年

【主要な出題項目】

集合と関数 連続関数 関数とグラフ ベクトル 行列 行列式 連立一次方程式の解法 固有値と固有ベクトル 微分 偏微分 逆関数の定理と陰関数の定理 極大・極小とラグランジュ未定乗数法 積分 多変数関数の積分 広義積分 線形常微分方程式

経済史

<西洋経済史>

【参考テキスト】

ロンド キャメロン, ラリー・ニール『概説 世界経済史』I, II, 東洋経済新報社, 2013年

【主要な出題項目】

経済史と経済発展、中世ヨーロッパにおける経済発展、ヨーロッパにおける第2の成長局面、経済的ナショナリズムと帝国主義、近代工業の夜明け、19世紀の経済発展：基本的決定要因、発展のパターン：先発工業国家、発展のパターン：後発工業国家と予期に反して工業化しない国々、戦略的経済部門、世界経済の成長、20世紀世界経済の概観、国際経済の崩壊

<日本経済史>

【参考テキスト】

杉山伸也『日本経済史』（岩波書店、2012年）

沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016年）

【主要な出題項目】

徳川時代の日本経済 「産業革命」と「在来的経済発展」 戦間期の日本経済 高度経済成長

開発経済学

【参考テキスト】

トダロ=スミス著『トダロとスミスの開発経済学(原著第10判)』（2010年）ピアソン桐原発行

【主要な出題項目】

開発とは何を意味するのか（第1章） 開発途上国の特徴（第2章） 購買力平価レート（第2章） 人間開発指標（HDI）（第2章） 開発の差異が生じた長期的原因（第2章） ロストウの成長段階論（第3章） ハロッド=ドーマーの成長モデル（第3章） ルイスの2部門モデル（第3章） 貧困ギャップ指数（第3章） 貧困層の経済的特性（第5章） 人口移動と都市化のジレンマ（第7章） ハリス=トダロの人口移動モデル（第7章） 輸入代替工業化戦略とその結果（第12章） 輸出志向工業化戦略（第12章） BOP ビジネス（テキスト外）

経営学専修

経営管理論

【参考テキスト】

芦澤成光・日高定昭 編著『現代経営管理論の基礎』学文社 2007年

井原久光『テキスト経営学 基礎から最新の理論まで 第3版』ミネルヴァ書房、2008年

【主要な出題範囲】

経営管理論の歴史、科学的管理論、フォード・システムとフォーディズム、古典的管理論、組織構造設計と事業部制組織、人間関係論、行動科学的管理論、近代（意思決定論）的管理論（バーナード、サイモン等）、コンティンジェンシー理論、企業文化論、CSR、ステークホルダー論

経営史

【参考テキスト】

宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史』有斐閣 2007年

宮本又郎・岡部桂史・平野恭平『1からの経営史』碩学舎 2014年

【主要な出題項目】

日本型企業経営の起源（江戸時代の企業経営） 近代経営の形成（明治前期・中期の企業経営）、近代経営の展開（昭和後期から昭和初年の企業経営）、戦前から戦後へ 経済成長と日本型企業経営（高度成長期から21世紀初頭までの企業経営）

金融論

【参考テキスト】

内田浩史（2016）『金融』有斐閣

大村敬一（2016）『ファイナンス論』有斐閣

【主要な出題範囲】

金融の機能、金融システム、金融市場、金融機関、金融商品価格、コーポレートファイナンス、インベストメント、リスク管理と保険、金融政策、国際金融

財務管理論

【参考テキスト】

井手正介・高橋文郎『経営財務入門<改訂版>』日本経済新聞出版 2003年

榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄・太田浩司『新版 現代の財務管理』有斐閣 2011年

【主要な出題範囲】

最適資本構成、配当政策、自社株取得、資金調達(エクイティ・ファイナンス、デット・ファイナンス)、資本コストとレバレッジ、株式会社構造、企業の合併・買収(M&A)、ストックオプション、株主価値経営、コーポレート・ガバナンス、法人化と株式持合い

経営戦略論

【参考テキスト】

伊丹敬之／加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版社

網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』日本経済新聞出版 2011

【主要な出題範囲】

全社戦略(多角化、垂直統合、M&A)、事業戦略(コストリーダーシップ、差別化、ニッチ)、持続的競争優位性、提携戦略、アウトソーシング戦略、イノベーション戦略、CSR・CSV 戦略、ポジショニングスクールとリソース・ベースド・ビュー理論、経営戦略論の歴史

ビジネス・エコノミクス

【参考テキスト】

丸山雅祥（著）『経営の経済学（第3版）』有斐閣 2017年

伊藤元重（著）『ビジネス・エコノミクス（第2版）』日本経済新聞社 2021年

【主要な出題範囲】

消費者行動 生産者行動 市場均衡 ゲーム理論の基礎 不完全競争市場 不確実性と情報の非対称性
外部性と公共財

人的資源管理論

【参考テキスト】

マネジメント検定試験公式テキスト2級 マネジメント実践〈1〉日本経営協会【編】

中央経済社；中央経済グループパブ〔発売〕 2023/03 発行

第2部 人的資源管理(人的資源管理の原則；人事制度と雇用管理；労務管理と労使関係；人と組織
に関するマネジメント理論)

【主要な出題範囲】

戦略的人的資源管理 雇用管理（採用・配置・異動・退職） 雇用責任 心理的契約 人事評価と昇進・
昇格（職能資格制度を含む） リーダーシップとモチベーション 組織市民行動 人的資源開発職場
の健康と安全 国際人事 国際労働基準

会計学

【参考テキスト】

平岡秀福著『現代の会計と財務諸表分析』創成社，2005年。

門田安弘編著『セミナー管理会計』税務経理協会，2016年。

【主要な出題範囲】

<財務会計>

企業会計原則と企業会計基準、資産の会計、収益と費用の認識・測定、キャッシュフロー計算書、
外貨建取引等会計、連結財務諸表

<管理会計>

経営戦略支援の管理会計：事業価値の測定と管理、セグメント会計（M&A会計、社外分社とグル
ープ経営含む）、バランスト・スコアカードマネジメントコントロールの管理会計：構造的個別計
画(投資の経済性分析)と業務的個別計画(特殊原価概念含む)、社内分社(事業部・カンパニー)の分
権的利益管理と資金管理(中長期・短期総合計画)、予算管理と原価管理(原価企画と原価改善
ABC/ABM)

経営情報

【参考テキスト】

東京大学教養学部統計学教室 編『統計学入門』東京大学出版会 1991年

山口 和紀 編『情報 第2版』東京大学出版会 2017年

【主要な出題範囲】

基礎統計（記述統計、確率と確率分布、中心極限定理、標本分布、点推定と区間推定、仮説検定、
カイ2乗検定、回帰分析）、情報基礎（コンピュータの仕組み、情報の表現、情報システム、情報

と社会)

●法学研究科 法律学専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
—	専門科目	出願時に 1科目選択	<p>●法学（総論）（試験範囲は以下の通り）</p> <p>①法の特質・機能 ②法秩序の構造 ③法源 ④法律学の任務と特質 ⑤裁判と法の適用 ⑥法の解釈 ⑦法と道徳 ⑧法と正義 ⑨法と効力 ⑩権利と義務</p> <p>●政治学（試験範囲は以下の通り）</p> <p>①政治学原論 ②政治学史（近代政治思想史） ③政治史（近代ヨーロッパ政治史） ④国際政治論</p> <p>※政治学は上記①～④の各領域からそれぞれ1問出題するので、その4問の中から1問を選択、解答する。</p>	13:00～ 14:00
	面接	—	面接	14:30～

※「特別学内選考試験」の出願者は、面接試験のみを行う。

※「法曹資格を現に有する者の特別措置（司法試験に合格して司法修習を修了していない者を含む）」の対象者は、筆記試験を免除する。

●文学研究科 英文学専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
英語英米文学 専修	外国語	—	英語	10:30～ 12:00
	専門科目	①、②とも出願時に選択	以下の①～②全てを解答する。 ①専門的な英語問題（イギリス文学、アメリカ文学、英語学から1科目選択） ②イギリス文学、アメリカ文学、英語学のうちから1科目選択	13:00～ 14:30
	面接	—	面接	15:00～

※ 次の成績または資格所持者については、出願時の申請により外国語の「英語」を免除することができる。（証明書のコピーをアップロードすること）

- ・ TOEFL iBT80 点以上
- ・ TOEIC 730 点以上
- ・ IELTS 6.0 以上
- ・ 実用英語技能検定（日本英語検定協会）準1級以上合格
- ・ 国際連合公用語検定・英語検定試験 A 級以上合格

※ 出願書類 A 票の専門科目欄に専門科目①、②から選択した1科目を記入すること。

※専門科目①、②の出題範囲

イギリス文学、アメリカ文学： 作家論、作品論を含む英米文学史

英語学： 英語史、英文法、英語音声学

※ 出願時に、自分の興味・研究テーマに近い分野の教員と連絡を取ること。

（入試窓口を通じて連絡を取ってください。）

●文学研究科 社会学専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
グローバル・スタディーズ専修	外国語	出願時に選択	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語のうちから1言語を選択。(辞書使用不可)	10:30～ 12:00
	専門科目		以下の①②を解答する。 ①共通問題 ②選択問題(受験者の研究希望分野を考慮して出題する)	13:00～ 14:30
	面接	—	面接	15:00～

※ 外国人には、外国語の試験を課さない。

※ 社会人には、外国語の試験を課さない。(社会人の定義：出願の段階で、4年生大学卒業後満4年以上経過している人)

【社会学専攻出題参考図書】

下記の文献は、社会学専攻をめざす場合の必読書である。文献 a. は専攻全体で共通かつ基本となる。原著は英語レベルの基準となる。b. 以下は各専門領域の基本となる。

- a. アンソニー・ギデنز『社会学』第5版、而立書房、2009年 (Anthony Giddens, Sociology, 5th edition, Polity Press, 2006)。
- b. 大梶俊夫他著『社会学のプロフィール』八千代出版、1997年。
- c. 園田恭一・西村昌記編著『ソーシャル・インクルージョンの社会福祉』ミネルヴァ書房、2008年。
- d. 羽場久美子他編『21世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003年。
- e. 棚次正和・山中弘編著『宗教学入門』ミネルヴァ書房、2005年。
- f. 栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史』河出書房新社、2010年。

●文学研究科 人文学専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
哲学歴史学 専修	外国語	出願時に選択	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語のうちから1言語を選択。 (辞書使用不可)	10:30~ 12:00
日本文学 日本語学専修	専門科目	出願時に入学後の専修を選択	以下の①②を解答する。 ①共通問題 ②選択問題(受験者の研究希望分野を考慮して出題する)	13:00~ 14:30
仏教学専修	面接	—	面接	15:00~

※ 外国人には、外国語の試験を課さない。

※ 社会人には、外国語の試験を課さない。(社会人の定義:出願の段階で、4年生大学卒業後満4年以上経過している人)

●文学研究科 国際言語教育専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
日本語教育 専修	外国語	出願時に選択	日本語を母語とする者は英語、中国語、ハンガール、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語のうちから1言語選択 日本語を母語としない者は日本語 (辞書使用不可)	10:30~ 12:00
	専門科目	—	日本語学・日本語教育に関する問題	13:00~ 14:30
	面接	—	面接	15:30~
英語教育専修	書類審査	—	エッセイ・英語能力証明書類・推薦書 ※面接を行うことがある。その場合は、試験日1週間前までに通知する。	—

●教育学研究科 教育学専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
教育学専修	外国語	—	英語（辞書を貸与する）	10：30～ 12：00
	専門科目	—	教育学	13：00～ 14：30
	面接	—	面接	15：00～
臨床心理学 専修	外国語	—	英語（辞書を貸与する）	10：30～ 12：00
	専門科目	—	臨床・発達・教育心理学	13：00～ 14：30
	面接	—	面接	15：30～

※ 外国人には、外国語の試験を課さない。

※ 臨床心理学専修を受験する者は、学部の時に心理学系の科目を履修しておくことが望ましい。

※ 教育学専修を受験する社会人には外国語の試験を課さない。（社会人の定義：出願の段階で、4年生大学卒業後満4年以上経過している人）

※ 臨床心理学専修を受験する社会人には、外国語を課さない。（社会人の定義：出願の段階で、4年生大学卒業後満5年以上経過している人。ただし、卒業後5年未満であっても、27歳以上で職歴が5年以上ある人が、所定の出願書類に加えて、

[出願資格認定申請書](G票)

[出願資格認定申請理由書](H票)

を提出した場合、書類審査の後に「社会人」として認める場合がある)

●国際平和学研究科 国際平和学専攻

専修名	試験科目			試験時間
	科目群	選択方法	科目名	
—	書類審査	—	エッセイ・推薦書・成績証明書 ※面接を行うことがある。その場合は、試験日 1週間前までに通知する。	—

IV 博士前期／修士課程 <カリキュラム表・開講科目・担当教員一覧>

以下、各研究科専攻のホームページからカリキュラム表・開講科目・担当教員一覧を確認することができます。

	経済学研究科 経済学専攻	
種別	カリキュラム表・開講科目	担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/economics/curriculum/view/>

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/economics/faculty-profile/>

	法学研究科 法律学専攻	
種別	カリキュラム表・開講科目	担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/law/curriculum/view/>

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/law/faculty-profile/>

	文学研究科 英文学専攻	
種別	カリキュラム表・開講科目	担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/english/curriculum/view/>

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/english/faculty-profile/>

文学研究科 社会学専攻

種別

カリキュラム表・開講科目

担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/sociology/curriculum/view/>

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/sociology/faculty-profile/>

文学研究科 人文学専攻

種別

カリキュラム表・開講科目

担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/humane/curriculum/view/>

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/humane/faculty-profile/>

文学研究科 国際言語教育専攻

種別

カリキュラム表・開講科目

担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/inter/curriculum/view/>

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/letters/inter/faculty-profile/>

教育学研究科 教育学専攻

種別

カリキュラム表・開講科目

担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/education/curriculum/view/>

<https://www.soka.ac.jp/grad-let/major/education/faculty-profile/>

国際平和学研究科 国際平和学専攻

種別

カリキュラム表・開講科目

担当教員

QRコード



URL

<https://www.soka.ac.jp/en/academics/graduate/grad-ips/curriculum/info/>

<https://www.soka.ac.jp/en/academics/graduate/grad-ips/faculty-profile>

VIII その他

1. 奨学金制度

* 日本学生支援機構

《出願資格》

人物・学業成績ともに特に優れ、かつ健康であって、大学院において研究を継続するには、日本学生支援機構の奨学金の貸与が必要であると認められる者に限ります。

なお、標準（最短）修業年限を超えて在学する者及び留学生は出願資格がありません。

《奨学金の概要》

種 類		貸与月額	貸与 始期	貸与期間
博士前期/ 修士課程	第一種 (無利子)	50,000 円、88,000 円	4 月	2 年間
	第二種 (有利子)	5 万・8 万・10 万・13 万・15 万から選択		

(2020 年度参考)

2. 創価大学牧口記念教育基金会大学院生奨学金【給付型】

本学の文系・理系大学院が、建学の精神に立脚した優れた研究者と高度専門職業人等の輩出によって人類社会により一層貢献することを目的に、本学大学院生で、人物、学業成績ともに優秀であると認められる者に奨学金が給付される。

《出願資格》

人物、学業成績ともに優秀で、本学大学院博士課程または修士課程に所属する大学院生とする。（学内の他の給付奨学金採用者は、対象から除く）

《給付額》

奨学金の給付は入学時 1 回限りとし、春セメスターに 20 万円を一括給付する。

《給付額》

当該年度春セメスターの入学生と、前年度秋セメスターの入学生のなかで、入試成績が優秀であったものを、研究科・専攻・課程別の採用数に従って選考する。

3. 教育職員免許状

大学において、一種免許状の所要資格を有する者が、博士前期課程を修了し、所定の単位を修得した場合、申請により専修免許状を取得することができます。

《免許状の種類と教科》

研究科	専攻	免許状の種類と教科
文学研究科	英文学専攻	中学校教諭専修免許状 英語
		高等学校教諭専修免許状 英語
	国際言語教育専攻	中学校教諭専修免許状 国語
		高等学校教諭専修免許状 国語
		中学校教諭専修免許状 英語
		高等学校教諭専修免許状 英語

4. 既修得単位の認定及び在学期間の短縮について

入学前に他大学院等で修得した単位は、研究科委員会において教育研究上有益と認められた場合、15単位を超えない範囲で当該研究科の修了単位数に加えることができます。また、博士前期課程及び修士課程においては、その認定単位数及びその修得に要した期間等を勘案して、1年間を上限に在学期間を短縮できる場合があります。詳細は、入学後大学院係までお問い合わせください。

大学院教員の紹介

●経済学専攻

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	浅井 学	金融資産リスクのモデル化と推定、検定	筑波大学 社会工学研究科 博士課程修了 博士(社会経済)	時系列分析 計量ファイナンス
教授	碓井 健寛	地方自治体における家庭ごみ減量化政策の計量経済分析	神戸大学大学院 経済学研究科 博士後期課程満期退学 経済学博士	環境経済学、地域経済学
教授	勘坂 純市	比較農業制度分析	東京大学 経済学研究科 博士後期課程満期退学 博士(経済学)	数量経済史・比較制度分析
教授	神立 孝一	1.日本の近世村落における経済構造 2.近世・近代の歴史史料の保存と管理	創価大学 経済学研究科 博士後期課程満期退学 博士(経済学)	近世日本経済史・情報知識学・史料管理学
教授	國島 弘行	アメリカにおける経営管理論の歴史的展開 日米企業におけるコーポレートガバナンスと労働問題の展開	明治大学大学院 経営学研究科 博士後期課程満期退学 商学修士	経営管理論
教授	栗山 直樹	1.国際労働基準と人的資源管理 2.グローバル化における社会的側面 3.企業の社会的責任と労働	創価大学 経済学研究科 博士後期課程満期退学 博士(経済学)	人的資源管理論・国際労働問題
教授	小林 孝次	貨幣・金融をめぐる理論ならびに統計的分析	創価大学 経済学研究科 博士前期課程修了 経済学修士	金融、マクロ経済学、計量経済学
教授	齋藤 之美	地域経済統合の理論的研究	アイオワ州立大学 経済学専攻 博士課程修了 PhD	国際貿易
教授	志村 裕久	国内外医療制度および産業の評価・分析 北欧金融システム 北欧型コーポレートガバナンス効率性分析	モンタナ州立大学 College of Engineering Applied Mathematics専攻および Computer Science専攻 モンタナ州立大学 大学院 Computer Science専攻 東京大学 薬学研究科 博士後期過程満期退学 博士(薬学)	医療経済 国際金融論 オペレーションズリサーチ

教授	杉本 一郎	歴史経済統計推計と実証分析 対象地域 英領期マラヤ 英領期ビルマ	マラヤ大学 高等研究所 博士課程修了 Ph.D.	数量経済史
教授	高木 功	1.Well-Being(よき生)の研究 2.アジア経済研究 3.ASEAN統合	創価大学 経済学研究科 博士後期課程満期退学 経済学修士	開発経済学 世界経済論 アジア経済論
教授	近貞 美津子	食品の需要分析、供給分析	ペンシルベニア州立大学 農業・環境・地域経済学, 人口学専攻 博士課程修了 Ph.D.	農業経済学、人口学
教授	中村 みゆき	1.シンガポールの資本市場と金融制度 2. 政府系ファンドの投資戦略 3. 間接型直接金融(投資ファンド)研究 4. CSRと資本市場(ソーシャルファイナンス)研究	九州大学大学院 経済学研究科 博士後期課程満期修了 博士(経済学)	コーポレートファイナンス、証券市場論
教授	西浦 昭雄	アフリカ企業・産業研究(農産物加工業、中小企業、直接投資、企業グループ研究など)	創価大学 経済学研究科 博士後期課程満期退学 博士(経済学)	開発経済学、アフリカ経済論
教授	西田 哲史	1.第2次世界大戦後のドイツの経済再建 2.第2次世界大戦後における難民・被追放民のドイツへの受容と社会・経済統合	ビーレフェルト大学 博士課程修了 Dr. phil. (歴史学)	ヨーロッパ社会・経済史
教授	平岡 秀福	1.企業価値を測定するモデルと企業価値を向上させる管理会計システムの研究(事業評価、ブランド価値、環境会計など) 2.価値創造経営の研究	筑波大学 経営・政策科学研究科 修士課程修了 博士(経営学)	管理会計・原価計算・コスト・マネジメント 財務分析
教授	増井 淳	1.解雇規制が正規・非正規労働者の労働インセンティブに与える影響 2.企業による非正規雇用者利用目的の決定要因	東北大学 経済学研究科 博士後期課程修了 博士(経済学)	労働経済学
教授	望月 雅光	知識工学の技術を用いた、機械、経営、医療等の各分野の専門知識を体系化して運用する知的情報システムに関する研究	九州工業大学 情報工学研究科 博士後期課程修了 博士(情報工学)	知識情報処理 情報システム 教育工学
教授	吉元 浩二	1.日韓企業の海外市場での競争戦略 2.合併事業戦略 3.日本企業と韓国企業の第三国における共同進出	ソウル大学経営大学院 国際経営戦略専攻 博士課程修了 経営学博士	国際経営戦略論

教授	リム・ タイウエイ	1. Industrial/Business History of contemporary Japanese and Chinese enterprises 2. Political Economy of Contemporary Northeast Asia (area studies perspective) 3. Social Impact of Industry 4.0 and other industrial revolutions in World History 4. Japanese business management 5. Economic Regionalism (East Asia area studies perspective) 6. History of Postwar Japanese and Contemporary China Economic Development 7. Diaspora studies: political economic history of overseas ethnic Chinese in East Asia 8. Political Economic History of Northeast Asian Energy Industries	Ph.D in History/East Asian Studies, Cornell University LLB (Hons), University of London	Japanese studies, Area Studies (East Asia), History (East Asia), World History, Political Economy (Area Studies), International Relations (East Asian Area Studies)
准教授	内海 友子	発展途上国の教育と労働市場	ミネソタ大学 応用経済学専攻 博士課程修了 PhD	開発経済学
准教授	大場 隆広	戦後日本の人的資本の経済史	東京大学 経済学研究科 博士課程修了 博士（経済学）	日本経営史・日本経済史
准教授	佐久間 貴之	金融リスクの計量化、金融派生商品のプライシング	筑波大学 ビジネス科学研究科 博士後期課程修了 博士（経営学）	ファイナンス
准教授	安武 妙子	企業の株主還元政策	ハワイ大学 Shidler College of Business 博士課程修了 Ph.D.	コーポレート・ファイナンス
講師	ダービッド・ マルチュケ	Retail Marketing, Customer Experience Management, Kaizen, Organizational Capabilities	チュービンゲン大学人文学部 日本学科 博士課程修了 (Dr. Phil.) 経済経営学部国際経営学科 修士課程終了 (Dipl.-Kfm.)	Marketing, Consumer Behavior, Japanese Business
准教授	金澤 伸幸	1. 財政政策・金融政策の効果の推計 2. 非線形な時系列分析	コーネル大学 経済学専攻 博士課程修了 PhD	マクロ経済学 時系列分析 労働経済学
准教授	里上 三保子	1. 東部ドイツを含む旧社会主義諸国における労働市場の制度	京都大学大学院 経済学研究科	比較経営論、人的資本論、企業論

		分析 2. ダイバーシティ・マネジメントの比較研究"	現代経済・経営分析専攻 博士後期課程修了	
講師	寺田 和之	公共政策が家計行動に与える影響の評価	東京大学大学院経済学研究科 博士後期課程満期退学 経済学修士	公共経済学 財政学
客員教授	河口 真一郎	・生産性分析 ・生産性と企業業績向上の視点でのビジネスプロセス再設計 ・生産性向上の視点での統合的品質生産管理 ・戦略的人的資源管理開発 ・組織行動論をベースにした組織活性化 ・バランス・スコアカードとKPIをベースにしたビジネスプラン・経営戦略と組織業績管理 ・CSRやCSVベースのグローバルな視点での地域・企業・人的資源管理開発	北海道大学水産学研究科 博士課程後期修了 博士（水産工学）	・確率過程の適応制御と予測 ・生産性分析 ・生産/品質管理 ・組織人材業績管理開発
客員教授	松本 秀之	1990年代からのIT革命そして現在の最先端DXがもたらす国際金融、経済、貿易及び文化へのインパクトを創立者の平和哲学を基に研究します	慶應義塾大学 経済学部卒業 経済学士 アイルランド国立大学 経営情報学修士課程修了 修士(経営情報学) ロンドン大学情報システム学 博士課程修了 博士(情報システム学)	最先端DXトレンド グローバル金融IT ITプロジェクトマネジメント IT比較文化研究 解釈学的情報システムリサーチ 帰納的理論構築研究手法
兼任講師	小林 守	アジア地域の投資環境 アジア地域における経済協力(OOA, OOF) 研究・調査プロジェクトのマネジメント	早稲田大学 商学研究科 博士後期課程満期退学 MBA	国際経営、比較経営、 プロジェクトマネジメント
兼任講師	馬場 善久	1.貨幣需要関数の推定 2.分散変動のモデルの推定と検定	カリフォルニア大学 サンディエゴ校 経済学専攻 博士課程修了 PhD	計量経済学
兼任講師	前田 清隆	国際財務報告基準との関連におけるわが国の企業会計基準のあり方	創価大学 経済学部卒業 経済学士	財務会計

【研究倫理担当教員】

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
准教授	高橋 薫	学習環境デザイン	お茶の水女子大学 人間文化研究科 博士後期課程修了 博士（学術）	日本語教育・教育工学
教授	松森 秀幸	中国仏教思想研究。特に唐代における大乘經典の注釈書の研究。	創価大学文学研究科 博士後期課程修了 博士（人文学） 中国人民大学哲学院宗教学系 博士課程修了 哲学博士	仏教学（中国仏教）
教授	小出 稔	東アジアの国際関係 日本外交	南カリフォルニア大学 Ph.D.	国際関係論

●法律学専攻

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	朝賀 広伸	環境法政策に関する研究 環境アセスメントに関する研究	創価大学法学部卒業 明海大学大学院不動産学研究科 博士後期課程修了 博士（不動産学）	行政法・環境法
教授	飯田 順三	1.国際法の法的性格 2.国際人権規範の国内実施 3.アジアの国際法受容発展史	英国ブリストル大学 博士課程修了 Ph.D.	国際法、国際人権法
教授	池田 秀彦	刑事手続法の比較法的研究。 具体的には 1.ドイツ刑事手続法の総合研究 2.東南アジア刑事手続法の普遍性と固有性、特にフィリピンの刑事手続法を中心とした研究	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 法学修士	刑事訴訟法
教授	尹 龍澤	東アジア行政救済法の研究	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 博士(法学)	行政法及び憲法
教授	岡部 史信	スペインおよびラテンアメリカ諸国の労働法および社会保障法の研究	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 法学修士	労働法 社会保障法
教授	加賀 譲治	1.証券相場操縦規制に関する研究 2.証券不正取引規制の研究	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 博士(法学)	企業法・金融商品取引法
教授	黒木 松男	我が国におけるコーポレート・ガバナンスの在り方 地震保険の再構築に向けて	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 博士(法学)	商法（会社法・保険法）

教授	小嶋 明美	1.日中民事手続の比較研究 2.裁判所の役割と裁量	早稲田大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 博士(学術)	民事訴訟法 中国法
教授	小島 信泰	1.日本近世寺院法 2.国制史 3.史料学	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 博士(法学)	日本法制史
教授	田村 伸子	民事実体法の規範構造と主張立証責任対象事実の決定基準 アメリカ法における契約の解除	中央大学 法学研究科 博士後期課程修了 博士(法学)	民法、要件事実論
教授	土井 美徳	1.イギリスの立憲主義と保守主義の研究 2.現代政治理論の研究(ラディカル・デモクラシーとグローバル・デモクラシー)	早稲田大学 政治学研究科 博士後期課程満期退学 政治学博士	政治学 政治史 政治哲学
教授	中山 雅司	1. 国際立憲主義と国際法 2. 国連と人間の安全保障 3. 国際法と平和学の接点	創価大学 法学研究科 博士前期課程修了 法学修士	国際法、国際機構論
教授	西山 恭博	中小企業を対象とした税務・会計・経営・コンサルティング	創価大学 法学研究科 修士課程修了 法学修士	租税法・簿記・会計学・起業家支援
教授	花房 博文	1.不動産担保法 2.コンドミニアム法	慶応義塾大学 法学研究科 博士課程満期退学 法学修士	民法・民事訴訟法・マンション法
教授	前田 幸男	1.境界研究、政治地理学 2.難民・移民の国際政治学 3. 気候変動問題を受けた政治理論自体の修正について	国際基督教大学行政学研究科 博士後期課程満期退学 博士(学術)	国際政治学
教授	松田 健児	英米法不法行為法の研究：特に、不法行為法を費用対便益分析アプローチに基づく偶発的事故法から環境や生態系の健全化を確保することが出来る環境不法行為(environmentaltorts)法や有害物質不法行為(toxic torts)法への変容とその変容を達するための財産概念、損害概念および因果関係概念の展開に関する研究	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 法学修士	英米不法行為法・EU法
教授	松田 佳久	物権的期待権の研究 法定地上権の研究	関東学院大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 法学博士	民法

教授	宮崎 淳	水法の総合的研究	創価大学 法学研究科 博士後期課程満期退学 博士（法学）	水法および民法
教授	山田 隆司	1.マス・メディアに関する法的問題の研究 2.憲法判例の形成過程の研究	大阪大学法学研究科 博士後期課程修了 博士（法学）	憲法、メディア法
准教授	佐瀬 恵子	1.刑法における自己決定権 2.違法論における被害者の承諾	創価大学法学部卒業 創価大学大学院博士後期課程修了 博士（法学）	刑法
准教授	中山 賢司	1. 東アジア国際関係 2. 越境地域協力、都市間ネットワーク 3. 海域環境ガバナンス	早稲田大学社会科学部卒業 早稲田大学大学院博士後期課程修了 博士（学術）	国際関係論、アジア政治論

【研究倫理担当教員】

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
准教授	高橋 薫	学習環境デザイン	お茶の水女子大学 人間文化研究科 博士後期課程修了 博士（学術）	日本語教育・教育工学
教授	松森 秀幸	中国仏教思想研究。特に唐代における大乘経典の注釈書の研究。	創価大学文学研究科 博士後期課程修了 博士（人文学） 中国人民大学哲学学院宗教学系 博士課程修了 哲学博士	仏教学（中国仏教）

●英文学専攻

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	大野 久美	1.ユージン・オニール研究 2.20世紀アメリカ演劇研究 3.演劇理論	大谷女子大学 文学研究科 博士後期課程満期退学 博士（文学）	・主に、ユージン・オニールの劇作品をフロイト、ユング心理学、ニーチェの哲学、東洋思想の角度から多角的に分析、研究している。 ・ギリシア劇などの古典や舞台芸術にも関心をもっている。
教授	寒河江光徳	ロシア文学 ロシア・モダニズム、ウラジーミル・ナボコフの作品研究	東京大学 文学部スラヴ語スラヴ文学科 東京大学 人文社会系大学院欧米系文化研究専攻博士課程修了 文学（博士）	スラヴ語スラヴ文学専門分野
教授	高橋 正	日英語比較対照研究 英語法助動詞・モダリティの研究	創価大学 文学研究科	認知言語学・プラグマティクス・対照言語学

		究と日本語との対照研究	博士後期課程満期退学 文学修士	
教授	藤本 和子	現代英語の語法・文法における変化の研究、言語教育のための英文法研究、学習者用英語辞典分析	創価大学 文学研究科 博士後期課程修了 博士（英文学）	英語学、英語辞書学
教授	Paul Horness	Understanding and developing assessment tools in second language acquisition; Enhancing the study abroad experience; International Relations	Temple University, Doctor of Philosophy (PhD) in SLA Education. Temple University, MS. Ed. in Teaching English to Speakers of Other Languages. California State University Fullerton, Master of Arts in Political Science.	Assessment, study abroad
教授	Richmond Stroupe	Student motivation and expectations; Critical thinking; Participatory management; Learner attitudes and perceptions	University of Southern California School of Education Doctor of Philosophy (PhD) Administrative Policy and Planning; International Comparative Education	Curriculum development; International comparative education; Leadership and professional development
准教授	熊田 岐子	アメリカ・ルネサンス、ファンタジーとメタファー、英語文学を応用する英語教育	広島大学大学院教育学研究科 博士課程後期修了 博士（教育学）	米文学、英米児童文学、外国語教育

●社会学専攻

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	井上 大介	ラテン・アメリカ民衆文化	メキシコ国立自治大学 人類学研究科 博士課程修了	文化人類学、宗教人類学
教授	江口 満	1. トルストイ思想 2. 「コミュニケーション」の視 3. 点から見たロシア語教育	ロシア科学アカデミー哲学研究所 倫理学研究科修了 Ph.D（哲学） 創価大学文学研究科 博士後期課程満期退学	1. ロシア倫理思想 2. 日露言語コミュニケーション
教授	小林 和夫	日本占領期ジャワにおける大政翼賛運動の形成・発展過程 ポスト・スハルト期における人間・社会開発と地域住民組織の動態	東京都立大学 都市科学研究科 博士課程 単位修得退学 博士（都市科学）	歴史社会学 インドネシア地域研究

教授	高橋 強	1.近代日中文化交流研究 2.比較家族制度研究	創価大学 法学研究科 博士前期課程修了 法学修士	法社会学、家族法学
教授	筒井 澄栄	地域包括ケアシステムの構築 サービス事業所の配置計画 福祉専門職教育	日本社会事業大学大学院 社会福祉研究科 博士後期課程修了 博士（社会福祉学）	社会福祉学（高齢者・障害者・ 自立支援等） 福祉工学 リハビリテーション
教授	林 亮	国際関係理論・現代中国国際関 係 東アジア共同体・アジア太 平洋地域の安全保障 知識情報 革命論	創価大学 文学研究科 博士後期課程満期退学 博士（社会学）	国際関係論 安全保障
教授	樋口 勝	1.儒家思想と現代化 2.馮契哲学と牧口価値論の比較	早稲田大学 文学研究科 博士後期課程満期退学 文学修士	中国哲学 儒家思想
教授	森 幸雄	都市のシンボル性 社会調査の方法 地域調査	創価大学 文学研究科 博士後期課程満期退学 文学修士	都市社会学 社会調査法
教授	FISKER NIELSEN Anne Mette	Social Anthropology; Anthropology of Religion, Politics, Gender; Anthropology of Japan; Soka Gakkai and Komeito; Okinawa; Egalitarianism and Hierarchializing Dimensions and Forces in Human Sociality; Self-Other Relations and the Bodhisattva Ideal in Actual Practice.	PhD, Social Anthropology, School of Oriental and African Studies, University of London	Socio-cultural Anthropology; Japanese society, culture, politics, religion, gender; Soka Gakkai, Komeito; local politics; Okinawa.

●人文学専攻

職 名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	伊藤 貴雄	カント哲学の影響作用史 ①形 而上学編（ショーペンハウアー 等）、②倫理学編（フィヒテ 等）、③美学編（シラー等）、 ④人間学編（ペスタロッチ等）	創価大学文学研究科 博士後期課程修了 博士（人文学）	哲学 思想史
教授	大塚 望	1.現代日本語動詞の形式性 2.現代日本語の類義語の相違	筑波大学大学院 文芸言語研究科 博士課程中途退学 博士（言語学）	日本語学 日本語教育学
教授	大西 克明	1.近代日本宗教史 2.宗教運動論 3.新宗教研究	東洋大学 社会学研究科 博士後期課程修了 博士（社会学）	宗教社会学 比較宗教学
教授	金子 弘	近代日本語の確立	東北大学	日本語学

			文学研究科 博士後期課程中途退学 文学修士	
教授	菅野 博史	中国仏教思想の研究。特に、南北朝・隋・唐の大乗經典の注釈書の研究。	東京大学 人文科学研究科 博士後期課程満期退学 博士(文学)	中国仏教思想、とくに、『法華經』、『維摩經』、『涅槃經』の注釈書の研究、南北朝仏教思想、天台宗、三論宗の研究をしている。
教授	工藤 順之	1.インド仏教の文献学的研究。特に写本を用いた『業分別』の研究。 2.サンスクリット文法学。特に統語論の研究	佛教学大学院 文学研究科 博士後期課程満期退学 博士(文学)	インド仏教、古典サンスクリット文法学
教授	坂井 孝一	1.鎌倉時代政治史 2.文学・芸能を中心とした日本文化史	東京大学 人文科学研究科 博士後期課程満期退学 文学修士	平安末から鎌倉中期にかけての政治史・文化史。文学・芸能に対する歴史学的視角・手法による分析。
教授	季武 嘉也	1.大正時代史 2.近代日本の政党と選挙	東京大学 人文科学研究科 博士後期課程満期退学 博士(文学)	明治維新から第2次世界大戦までのいわゆる日本近代史を専門とする。特に、中央・地方を含めた総体的な歴史像の形成を模索している。
教授	成田 和信	1.19世紀から現代にいたる英語圏の倫理学 2.自由、幸福、愛に関する哲学的分析	ミネソタ大学大学院 哲学科 博士課程修了 (PhD in Philosophy)	倫理学
教授	平林 香織	井原西鶴を中心とする日本文学の研究 大名文化圏の研究	東北大学 文学研究科 博士後期課程修了 博士(文学)	日本古典文学
教授	福谷 茂	1.カント哲学 2.形而上学史 3.日本哲学史	京都大学 文学研究科 博士後期課程修了 博士(文学)	西洋近世哲学史
教授	前川 健一	1.古代・中世を中心とする日本仏教の教理史 2.生命倫理を中心とする仏教の倫理思想 3.法華經の成立論・享受史	東京大学 人文社会系研究科 博士課程修了 博士(文学)	仏教学
教授	松森 秀幸	中国仏教思想研究。特に唐代における大乗經典の注釈書の研究。	創価大学文学研究科 博士後期課程修了 博士(人文学) 中国人民大学哲学院宗教学系 博士課程修了 哲学博士	仏教学(中国仏教)
教授	村上 信明	・満洲語・漢語文献を用いた清朝史研究 ・清朝の旗人官僚に関する研究 ・清朝の対チベット政策研究	筑波大学 人文社会科学研究科 博士課程修了 博士(文学)	歴史学(東洋史)

教授	山岡 政紀	現代日本語文法。対人的モダリティを文機能として捉え直し、語用論や発話行為論の知見を加えた発話機能論の理論構築に取り組んでいる。	筑波大学 文芸言語研究科 博士後期課程満期退学 博士(言語学)	言語学、現代日本語学、発話機能論
教授	山中 正樹	1.川端康成の<文学> 2.近代日本語小説における<時空間>と<語り> 3.国語教育における<小説>の教材価値 4.第三項論と<世界認識>	名古屋大学大学院 文学研究科 博士後期課程満期退学 博士(文学)	近代日本文学 国語教育
准教授	蝶名林 亮	①メタ倫理学(実在論と反実在論、自然主義と非自然主義、倫理学と経験科学、規範的性質とその他の性質の関係、道徳的個別主義のメタ倫理学上の諸問題、など) ②その他の倫理学(医療における説明、福祉倫理、自殺、謝罪の倫理学、など) ③その他の哲学関連の研究(信仰の性質、牧口常三郎の価値論、仏教と哲学的問題の関係、など)	Cardiff University, PhD in Philosophy	哲学(主に倫理学)
准教授	古川 洋平	1. 初期の仏典に用いられる用語の解明 2. 用語の解明をもとにした仏教思想及び仏教文化の解明	創価大学大学院 文学研究科 修士課程修了 大阪大学大学院 文学研究科 博士後期課程修了 博士(文学)	初期仏教(原始仏教)
准教授	帆北 智子	近世ロレーヌ=エ=バール公国史研究 近世貴族史研究	東北大学 国際文化研究科 博士後期課程修了 博士(国際文化)	ヨーロッパ地域史 フランス近世史

●国際言語教育専攻
《日本語教育専修》

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	斉藤 信浩	量的手法による第二言語習得の研究(日本語・韓国語)	名古屋大学・国際言語文化研究科・博士後期課程満期退学・博士(文学)	第二言語習得、日本語教育
教授	山岡 政紀	現代日本語文法。対人的モダリティを文機能として捉え直し、語用論や発話行為論の知見を加えた発話機能論の理論構築に取り組んでいる。	筑波大学 文芸言語研究科 博士後期課程満期退学 博士(言語学)	言語学、現代日本語学、発話機能論

教授	山本 忠行	1.アフリカにおける言語と貧困 2.創価教育と日本語教育 3.在住外国人の日本語教育政策研究	創価大学 文学研究科 博士前期課程修了 文学修士	日本語教育 言語政策
教授	石丸 憲一	・ 文学教材の読解過程を反映した指導の研究 ・ 意見文指導の研究	兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 修士課程修了 修士（教育学）	国語科教育学
教授	大塚 望	1.現代日本語動詞の形式性 2.現代日本語の類義語の相違	筑波大学大学院文芸 言語研究科博士課程中途退学 博士（言語学）	日本語学 日本語教育学
教授	金子 弘	近代日本語の確立	東北大学 文学研究科 博士後期課程中途退学 文学修士	日本語学
教授	山中 正樹	1.川端康成の<文学> 2.近代日本語小説における<時空間>と<語り> 3.国語教育における<小説>の教材価値 4.第三項論と<世界認識>	名古屋大学大学院 文学研究科 博士後期課程満期退学 博士（文学）	近代日本文学 国語教育
准教授	日高 吉隆	日本語教材の開発 口頭表現・文章表現・漢字の指導法	杏林大学 国際協力研究科 修士課程修了 修士（学術）	日本語教育
兼任講師	守屋 三千代	認知言語学に基づく日本語学、 類型論、および言語と文化の 同姓	東京外国語大学 外国語学研究科 修士課程修了 文学修士	日本語学 認知言語学 文化記号論

《英語教育専修》

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	Laurence MacDonald	Japanese education reform; U.S. / Japan comparative education policy studies; Learner autonomy and motivation	University of Maryland Department of Education Policy and Leadership Doctor of Philosophy (PhD) International Education Policy	Education policy and practice; International comparative education; Education leadership and administration
教授	Paul Horness	Understanding and developing assessment tools in second language acquisition; Enhancing the study abroad experience; International Relations	Temple University, Doctor of Philosophy (PhD) in SLA Education. Temple University, MS. Ed. in Teaching English to Speakers of Other Languages. California State University Fullerton, Master of Arts in	Assessment, study abroad

			Political Science.	
教授	Richmond Stroupe	Student motivation and expectations; Critical thinking; Participatory management; Learner attitudes and perceptions	University of Southern California School of Education Doctor of Philosophy (PhD) Administrative Policy and Planning; International Comparative Education	Curriculum development; International comparative education; Leadership and professional development
教授	William E. Snyder	Language Teacher Professional Development; Student Engagement in Language Learning; Reflective Practice; Applications of Flow Theory and Self-Determination Theory in Language Teaching and Learning.	Northwestern University Linguistics (PhD)	Second Language Acquisition
准教授	Valerie Hansford	Curriculum design in general and specifically for content-based courses, integrating culture into the language classroom, intercultural communication	SIT Graduate Institute (formerly School for International Training) Master of Arts in Teaching English to Speakers of Other Languages	TESOL, curriculum design, integrating culture into the classroom
准教授	Hideo Ozaki	Learner characteristics and second language acquisition	Ohio State University School of Education Doctor of Philosophy (PhD) Foreign Language Education	Teaching English to Speakers of Other Languages
准教授	Colin Rundle	English teachers in Japan and stereotypes of “Japanese culture”	University of Sheffield	Language Education in Japan
講師	David Malcolm Daugherty	Learner autonomy; Learner motivation; Integrated curriculum; Curriculum design and development; Pronunciation pedagogy; Vocabulary development; Content-based learning; Project-based learning	Soka University of America, Graduate School, Master of Arts -- Second and Foreign Language Education-- concentration in TESOL	English for Specific Purposes; Content-based learning in higher education; Curriculum design and development in ESL/EFL; TESOL-Vocabulary development; TESOL-Pronunciation
講師	FORREST NELSON	CALL, Study Abroad, Materials Design	MA in the Teaching of Language, University of Southern Mississippi	English Language Instruction
講師	Nathaniel Finn	Providing effective English-medium instruction, academic discourse socialization, language socialization	Temple University Doctor of Philosophy (PhD in progress) Applied Linguistics Temple University Master of Education Teaching English to	Applied Linguistics

			Speakers of Other Languages	
講師	Alison Hasegawa	Changes in Japanese Primary English Education. Using storytelling effectively in primary school English classes.	Leeds Metropolitan University, UK. University of York, UK. (MA in TEYL)	Japanese Primary English Education. Children's Literature and language development.

【研究倫理担当教員】（英文学専攻・社会学専攻・人文学専攻・国際言語教育専攻）

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
准教授	高橋 薫	学習環境デザイン	お茶の水女子大学 人間文化研究科 博士後期課程修了 博士（学術）	日本語教育・教育工学
教授	松森 秀幸	中国仏教思想研究。特に唐代における大乘経典の注釈書の研究。	創価大学文学研究科 博士後期課程修了 博士（人文学） 中国人民大学哲学院宗教学系 博士課程修了 哲学博士	仏教学（中国仏教）
教授	小出 稔	東アジアの国際関係 日本外交	南カリフォルニア大学 Ph.D.	国際関係論

●教育学専攻
《教育学専修》

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	Andrew Gebert	創価教育思想史、牧口思想、思想史研究の方法としての翻訳論	早稲田大学 博士後期課程満期退学	近代日本思想史 翻訳論
教授	牛田 伸一	・一般教授学と一般教授学の関係に関する研究 ・伝統的な教授学の鍵概念の理論的な展開に関する研究（教育的教授、教育的タクトなど） ・伝統的な教授学の鍵概念の実践的な展開に関する研究（改革教育学志向の学校改革の構想と実践の研究）	創価大学文学研究科 博士後期課程単位取得退学 博士（教育学）	教授学 ドイツ教育学
教授	鈴木 将史	1. 確率過程論・確率微分方程式論 2. 算数・数学教育における身近な教材の活用 3. 発展途上国の数学教育と教育支援 4. 江戸期の算における数学教育カリキュラム	東京大学 理学系研究科 博士課程満期退学 理学修士	数学（確率論） 数学教育学
教授	富岡比呂子	子どもの自己概念・自尊感情の発達 児童期・青年期の学校適応感 文化と自己形成 初等教育の日米比較	創価大学教育学部卒業 カリフォルニア大学（UCLA）大学院 博士課程教育学専攻修了 教育学博士（Ph.D in Education）	教育心理学 文化心理学
教授	関田 一彦	1. 「協同」の持つ教育的効用に関する研究 2. 協同教育の実践的研究（授業モデルの提案）	イリノイ大学 教育学専攻 博士課程修了 Ph.D in Education	教育心理学・教育方法
教授	田村 修一	1. 教師の被援助志向性 2. 教職志望者の被援助志向性 3. 「チーム援助」の志向性と遂行能力を高める教員養成プログラムの開発 4. 「チーム援助」を促進できるリーダー教員育成プログラムの開発	筑波大学人間総合科学研究科 博士後期課程修了 博士（心理学）	学校心理学 カウンセリング心理学 教育心理学
教授	舟生日出男	1. 集散的創造活動を通じた多声的なアイデア生成を支援するシステムの開発と実践的評価（XingBoard） 2. 創発的分業支援システムの開発と教育実践（Kneading Board） 3. 多声的な思考を促進するためのマンガ表現法の教育実践	東京理科大学基礎工学研究科 博士後期課程 単位取得退学 博士（工学）（東京理科大学）	教育工学

教授	鶴田 真紀	1.障害の社会的構成 2.病いと教育をめぐる質的研究 3.障害児教育実践・特別支援教育実践の相互行為研究	立教大学文学研究科 博士後期課程満期退学 博士（教育学）	教育社会学 障害教育の社会学
教授	宮崎 猛	社会参加学習論	早稲田大学 教育学研究科 博士課程満期退学 教育学修士 国際政治学修士	教科教育学（社会科）
准教授	井上 伸良	1.教育機関の経営方式・職員体制 2.社会教育施設体系のあり方（特に公民館整備体系）	東京大学大学院 教育学研究科 博士課程満期退学 修士（教育学）	教育行政学 社会教育学
講師	坂口貴弘	1. 現代記録管理論 2. 文書・記録の整理と評価 3. アーカイブズの保存・継承	学習院大学 人文科学研究科 博士後期課程満期退学 博士（アーカイブズ学）	アーカイブズ学

《臨床心理学専修》

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	宇都宮 敦浩	少年非行 再犯防止 災害と犯罪 加害者家族問題	鹿児島大学教育学部 卒業 教育学士	犯罪心理学、少年非行問題
教授	遠藤 幸彦	境界性パーソナリティ障害の入院治療 精神力動フォーミュレーション 思春期臨床	日本医科大学 大学院医学研究科 博士後期課程修了 博士(医学)	精神分析学 思春期青年期精神医学 学校臨床
教授	園田 雅代	1.カウンセリング・心理療法の実践的研鑽とその理論的構築 2.自尊感情ならびに自他相互尊重の意識を育成する自己表現トレーニング 3.個人ならびに家族の生涯発達論	東京大学 教育学研究科 博士後期課程修了 博士（医学）	臨床心理学（クライアント中心療法をベースに家族療法 ・コミュニケーションスキルトレーニングなどを活用） ・アサーション（自己表現）トレーニング
准教授	中野 良吾	1.学生相談やスクールカウンセリングにおける心理援助技法。 2.学校コミュニティにおける心理援助システムの構築（職種間の協働のあり方など）に関する研究 3.大学受験生へのメンタルヘルス活動に関する臨床的研究	東京大学 医学系研究科 博士後期課程満期退学 修士（保健学）	精神保健学 臨床心理学
准教授	毛利 眞紀	1.自閉スペクトラム症を持つ人の心理支援 2.学生相談 3.子どもの心理・社会的発達を支える大人の関わり方	九州大学大学院人間環境学府 博士後期課程単位取得退学 修士（人間環境学）	臨床心理学 発達臨床心理学
兼任講師	岩井 昌也	ロールシャッハテストの有用性とフィードバックの効果 精神科心理臨床における短時間心理面接の有効性 個人・家族・対人・環境・社会	上智大学 文学研究科 博士後期課程満期退学 文学修士	心理検査法 統合的心理療法 力動的精神療法 関係性(家族・カップル)療法

		的視点を含めた統合的な心理援助の在り方		
兼任講師	北島 歩美	1.カウンセリング 家族療法の視点をういた心理援助 2.大学コミュニティにおける発達支援と心理援助	東京大学 教育学研究科 博士課程満期退学 教育学修士	臨床心理学・家族心理学・コミュニティ心理学
兼任講師	五味淵高志	精神病理学的分裂病研究 夢の分析	杏林大学医学部卒業 医学士	精神神経科
兼任講師	西里 美菜保	1.幼児期の社会的注意の発達の变化に関する研究 2.Dyscalculia 児の見積もり能力に関する研究	大阪大学大学院連合小児発達学 研究科修了 博士（小児発達学）	臨床心理学、発達心理学
兼任講師	野村 晴夫	1.心理臨床と物語論との理論的・実践的関連 2.老年期における語り(ナラティブ)の生涯発達の意義	東京大学 教育学研究科 博士後期課程満期退学 博士（教育学）	臨床心理学・発達心理学
兼任講師	鉤 治雄	1.教師生徒関係における教育臨床学的研究 2.特別活動の教育的意義に関する教育臨床学的アプローチ 3.児童生徒の学校・家庭生活意識に関する国際比較調査研究 4.ポジティブサイコロジー(楽観主義)に関する臨床的研究	大阪教育大学 教育学研究科 修士課程修了 教育学修士	学校臨床心理学 教育心理学 生徒指導論 特別活動
兼任講師	村松 励	非行を犯した少年に対する心理・社会的援助	東京都立大学 人文学部卒業 人文学士	犯罪・非行心理学 非行臨床
兼任講師	山田 文紀	1. 大うつ病における認知行動療法のイメージ書き直し法の研究 2. 退職者のためのリワークプログラムにおける集団認知行動療法の研究	千葉大学大学院 医学薬学府 博士課程（医学領域）修了 医学博士	認知行動生理学 病院臨床 学生相談 学校臨床

【研究倫理担当教員】

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
准教授	高橋 薫	学習環境デザイン	お茶の水女子大学 人間文化研究科 博士後期課程修了 博士（学術）	日本語教育・教育工学
教授	松森 秀幸	中国仏教思想研究。特に唐代における大乘經典の注釈書の研究。	創価大学文学研究科 博士後期課程修了 博士（人文学） 中国人民大学哲学院宗教学系 博士課程修了 哲学博士	仏教学（中国仏教）

●国際平和学専攻

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	ヴェセリン ポポフスキ	国際人権保障 人間の安全保障	ロンドン大学 Ph.D.	紛争研究
教授	小出 稔	東アジアの国際関係 日本外交	南カリフォルニア大学 Ph.D.	国際関係論
教授	ジョナサン ルックハースト	G20の政策形成メカニズム	エセックス大学 Ph.D.	言説研究
教授	ハートムット レンツ	EU研究	エセックス大学 Ph.D.	政治学
教授	ニコラス エマニエル	アフリカ諸国の民族紛争	カリフォルニア州立大学デービス校 Ph.D.	政治学
教授	ロバート シンクレア	国際正義論	サイモンフレーザー大学 Ph.D.	哲学
准教授	アナ コリ	Sustainability, Climate Politics, Post-structural discourse analysis	筑波大学 Ph.D.	International Political Economy, Globalization and Environmental Politics
准教授	フィスカールネン アネメッテ	日本の政治参加 日本におけるジェンダーと道徳 イデオロギーとしての宗教-世俗	SOAS, ロンドン大学 Ph.D.	政治人類学、宗教・市民社会、ジェンダー
講師	チャン リーシン アレックス	International Migration; Asylum Seekers and Refugees; Media and Culture; Gender and Identity; Elderly and Poverty	Doshisha University, Doctor of Philosophy (PhD)	Media sociology; migration and ethnicity
講師	吉江 弘和	天皇制と公教育の近現代日本史	ハーバード大学 Ph.D.	歴史
兼任講師	オリビエ・ウルバン	平和構築の音楽 平和構築理論	南カリフォルニア大学 Ph.D. ブラッドフォード大学 Ph.D.	文学 平和学
兼任講師	サチ エドワード	高等教育 国際化と異文化教育 宗教間対話と平和教育 宗教の社会と文化への影響 土着文化と脱植民地化	メリーランド大学、 Ph.D.	教育

【研究倫理担当教員】

職名	教員名	主な研究テーマ	出身大学・最終学歴	専門分野
教授	小出 稔	東アジアの国際関係 日本外交	南カリフォルニア大学 Ph.D.	国際関係論